善惡迷所圖會 全

へ13
3134
2

門 へ 13
號 3134
2

善惡道中記第二編

善惡道中記圖會 全

頂恩堂販

昭和九年九月十二日
購求

曩ふ善惡道中記と題して人間一世の盛衰を旅中の趣ふなぞらへ戲作せしい本ところハ宝暦六年丙子年の印本。善惡道中獨案内と題せし。飛雄亭の著作ふ據る所藏豐芥子古人立川馬馬初名ところ世ふ大ふ行はるゝして。天明年中。桃栗山人林發齋大通獨案内と題し青樓通客の趣と述て。本文の小冊ふ絵圖一枚を添う。其体裁飛雄亭の作と模擬を。夫より寛政年間山東京傳。悟道獨案内と題し。或ハ善惡名所圖會と号。基所宝暦の善惡獨案内の趣ふ倣へり。先哲の刎案至まり盡せり。今將糟粕を緤て補綴せしふ幸ふ〻時好ふ称ひ。販元不斗利を得しそ。是よりして書肆ハ後集の討求なり。然ともど僕素より戲作を業とせず。筆硯煩多に故を以て。太年再び稿を脱せそ。猶後輯の需頻なるを。許諾し

俱ふ棄にようなく。已事をもぢ今歳初春。新ふ硯を發者好る故ふ
拙き筆ふ稍責を塞ぬき。従来嬰児の為ふ勧善懲悪の一端とも
あらん欲と。善悪迷所圖會と題えて。樺を嗣支とハなりぬ。前
編と俱ふ高評を給ぬ書肆の僥倖あらんとしいふ支と。爰ふ名
所の古跡と聞えし。晋子其角が鄰なる。萩生の井戸ふ邊りふ
す発れ。

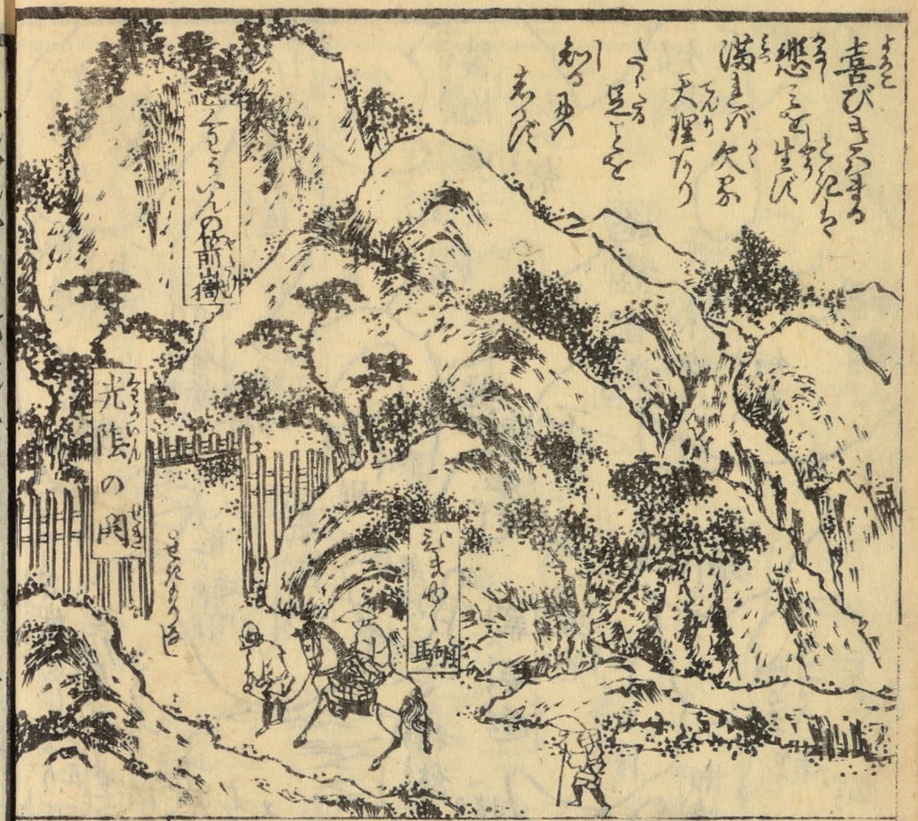
維時弘化二年　江戸楓川の市隠
歳在乙巳春　一筆菴主人戯誌
稿成
同三年丙午春發兌

悟道迷所
豎日河
往者は蟲飛と
すれども
そもそも此ものと
聖人の確言
あり
昨日の淵も
淵となる
なすゝの流も
なすゝの流も
めぐる水小なれども
千変万化果知

移り来る
浮世の乃中ハ
迷所なり
迷所なれ
とも
猛人よ
道を
悟て
牛
行
道を
牛を
ゆくへ

悟道迷所之全図

有量
福禄道
宝の山
長寿
安楽
和合
惻隠
富貴
分と守
経済道
貧之の
繁栄
子孫
陰徳
中銭道
知足
質素
生財
陽報
慈悲
正直
正路
天命
人道
堪忍
智恵の海
慎
知
命
悟道
獨
倹約
脊背
悟氣乃
質朴
知
公道
出世
立身
義理
三教道
道徳
徳行
儒
仏
神
人情
女島
歓楽
栄曜
栄花
色の道
後悔道
跡の祭
困窮
欠落
散財
火災
逢愁皆道
不幸
短命
病難
好色皆道
我侭
不義
慈の海
非道
不孝
山の神
不人情迷所
妻皆道
無理
大山師
第要道
強慾
死体
利慾
悟
嗜
煩悩
懶惰
哀傷
離縁
喜怒皆道
大酒
口論
貞節
五常道
忠孝
仁義
礼智
信
安楽
長寿
此図方角を
似の文字
丞加此ハ
不ル此ル加ルの



悟喜乃問皆道唐桟胴箪要道難皆働叅隠同妻戒道福禄道

外ハ一統録輯余集

國恩山豊稔人舎神社　福孫道生一の名勝なり実ハ風俗素撲淳厚なりて春葉とゆたに稼穡を力尚古の風を失ハず風土南和平にして五穀成熟人民富饒なりて海波穏なる事に風風舞麒麟遊びて松ハ常盤の色を更ハず梅ハ紫桐の香りを重ねて竹ハ節操の程を死て孫一龜鶴舞遊して第柔を重ね変化限と知るべからず抑この地ハ人世第一の所なれ共物言ハぬ山水ハ日月の神猛虎ハ忠烈の海潮ハ信を守り善く神徳仰ぐ故ハ人ハ性来の事なり嫌聞きて道なるの色孟子の性善なりとハ悪道ハ人ぐ教と為せよ云ふも荀子の性悪なりとハ善ハ入為き教をまもるべしと嫁

去る由此神の山中に自然の宝物ありて夫婦の道を守りし女一由緒の
道に叶ひし仁平年中を知り身の分限を弁へ陰徳を積む事を知る世人この
社に丹誠を運びて祈誓し身の行ひを全うするものには長命繁栄
益あらずといふことなし謹んで当社の神徳を守りて後代に残すもの也実相之
宝物山平産全書　事は寺の字違ひ　和合の道筋にかかり神秘なる事なり
女房大事　并剣の統及び懐胎十月の生れ子の育て方産室の湯殿は
懐妊に限り出入の衣裳胞衣の拵へ深切にして当る縁月安産すべし
まゝ産をなすべき場所に至らば出産ある所の赤子早く目を開き
家繁昌し子孫を延引きし人倫常の悦び末の世嫡の家の家を
ご詠歌之　とまり末代真如の教えにてあしかれといふ所なる時は悪魔の為

に殺傷し不肖の恐を現じ家の興廃幼児の中に定めしれども
手習学問茶湯香法修行の学業精神の成長なり菩薩
の慈悲深く身を養ふに於いて手習以後寿を給ふ夫人の難を遁
しるに赤子の身ぞあり　詠歌　則是之　常に為す所の宝物多し

昔彰の絵巻物　むかしあつて土佐の又平筆
桃太郎一代記　花咲老爺伝記　舌切雀　狸汁兎の栖
猿蟹合戦　鼠の嫁入　狐の嫁入　其外一代記とのみ名ある勇士の画伝多し
かうしやうの日傘　物語を　悪狸を
手遊びの諸玩　挂軸　おびどし
恩愛親王　古代裏の玉
心必の短冊　若労若患之像　嫁よ花よの撰挟みの霊べし
　一下絵　諸翁の広作
　一統丹緑といひ落さん

はくばくそたぞりつゆめしてこそをたのめ
こゝろかにつゆる老をつとすまく
古歌

子故の迷所

そま堂
望人十九の田
食ひ杉
子ゆの堂
食ひ杉の跡
食ひ杉の天神
稲のゆん堂
もろ橋
恵瑞峠
樹珍山
おきむり山

すゑと峠
すゑとの龍
あつくの関
乳母山
りとり坂
わい井
於坊さんいんそくま
子ゆのやき場

泰平山安樂の身哉

人道の本衡たるべし 夫婦の道より聖賢の乃ち入る所の道

地面有德天神 天神は人なる無欲子息人として四見者おのく

生まれたる生くる物の性質素直にして孝の道を守り仮ふも奢を願ふ事なく

質素倹約を旨とし上を敬ひ下を憐む慈悲の心深く慈愛一

ふて至る所の勤を怠なく子孫長久の繁栄をやう養ふ事

親族の末社ふい貧窮を救ひ着屋を惠み財宝を施す事

故ふ天理ふ応ずる人德有き 神者 夫社 ある生

夫婦石 夫婦石は泰平山の麓にあり相伝ていふ昔ふ夫婦の

農民あり常ふ貧ふるを歎て奥の仏殿にこもり夫ハ妻となれを

妻ハ夫を勧ひかづきを小脇に耕作の勤怠なく二男二女をもうけ

その老育孟母の教きあり けれハ成るより農業を絶り親ハ妻ハ種を蒔晴雨

行ふ事 けれハ 国成耕し丹誠ふ怠なく夏の炎暑を凌ぎ苦作を

とハ国成耕し丹誠ふ怠なく夏の炎暑を凌ぎ苦作を

樂ミ多き桃の下涼男ハ山へ行てら妻ハ二姉と共食成よろこび

是を我天より授の宝貴とされ歌ふ出けるとその風儀謙村ふ

ゆゝしの故ふ夫婦の形勢を石ふ彫人古跡を殘せ事

高運山 之教道より福祿道へ到り家の山人ふ道なり平人業に

安樂の宮

右恵の海

不老苑

孝心の社

分霊の社

義堂

鶴舞

千年樹

亀遊

萬代池

敬く所ゆえ天運循環という事を考えて慎むべき道
を忘れ果報に驕て活るとの人ぞ果報とは果報とは陰徳を積
こそ孫ば陽報あるべき運い天にあり牡丹餅は棚ぼたとも
いえども棚へ揚る人がなければ只花の牡丹餅のなるべき事を思
る運山に居ながら思ふ事なるものなり眞実の教に
云蓮の花盛なれば近く香を放ち紙の貴ふまりて漏れ欲の私に
愛ふ事なく人を逐ふ事を慎む人を敬ふ事を
慕ひ恩を徒捨しいまもあり何の世でも抓ふ又ふ
親の為子孫の為ふ登るものあり煩悩の雲ふ掩われ只
宝の山ふ入んと欲ふ道を忘て迷所なり天命を楽

しむべき道ふ背むく悪眼ふ心ゆるべ
き所なり常毎門ふ入欲心深く物を食も不食ふ減る
食代用を思ひ宝ふ心ふ入んとを思ひ立て夫の経ふ厭び
一人の婦人と乗用ふ乗て徳河ふ入りて服ふ入て宝の山
の事腹ふ入りし所ふ偽ふ徳風ふ吹て婦さま先達の婦人
又矢ひすぐく帰りしとぞ見て後ふ宝ふ入まぐるを
宝して帰るとの人ふ帰附致社稷ふ対面の所見を思りの人
云蓮ふ入しまりよりも朝ふ居合せとも乃ふ行
先達様方よりの山ふ登るとの人ふ
迷所の言山なり

世渡の迷所

高尾山

出世の滝

出世の泉

その見れ花盛

増長谷

家の面木

みつけ山

金の夢

家業者

世渡の橋

一尺とび岩

うせ物

不經濟散財寺 夏日用也 等用道の技道ふかり

本尊借錢檀寐者迦葉 モウ呉兄損者一統散例の御作

身代質堂伽藍堂 食哉不食あんと上人再建 空腹ひ甚五郎造立

焼呑陀如来の尊像 はまらん國メノ傳来

左リ前の身陀如来

崇寺ハ平こ乳ふ〜て弓ケこ山もなく弓金神の社を頭れ上ふ

祀つて祭礼盛二度にあり後悔々恵孫もこ人見を後の祀を云

本堂ハ根接茶ふて出光大祝ふ及びさいこん自力ふ及びくく

紀藤一円お寄抵抗堂その崇を以ものまとも弓代の大完ふ

う孫焼石の水忍うき元の本所ふ陀佛ちふ出現あり係

らん亭小種の掘ふ腰をりくも世間ハ鬼門八方ふさがり山門

の二面日出来ぬ見邪なく方山ふり傷殘の測ふ為て浮む

潮ふ〜貪色性人別とこ〜ふ

雑物種吹ふ志ん

界 縁起

法人けちやの為ふ

抑者山の開基ハ律俗一編性人子孫の為ふ教事弱ふ苦

沙志て義だくれ宰芋紙淺ぎ蘭色の物ども手拭を名

古布ふの衣ふど出こひ雲色の袴を巻ハ生涯潔を

刑名小付ど移海ふ上の山来葉様りく忽間に七百年の年

堂成造こ〜のふ史ようふ流堂宝玉光を建こ〜ふりく一代ハ

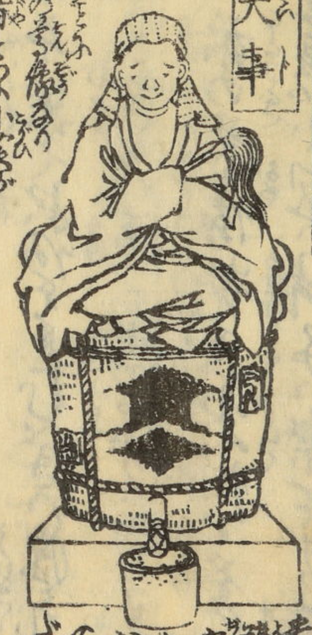
今の人ふ人となりふひ地面こ〜ふ在の大地を造こ〜ふ

身くみ和尚湯和尚しかりうちと栄西禅師と奪ふ所なり
今恨い涌れて名人湯水れば
穴とおけるを利ふ利ふこの為
当代の五百弟子下ふ恨ふ為
蘭と蘭と多く家ひ山ふ
性人教年の辛苦ふ
和尚い陽庵和尚となり女房大師事勢を
弟子の家を追出し彩ふ
言ふ勇り弟ふ茂多くさう
小追例さま西所再勅波見和尚孫の源乳上人世ふ

北鎌の朝すゝ家の素所と宣ふ女房大師公を
人情の邪ひと押て弟子の後
のつふ偽今ふ前も過らず
和尚和を一個もつぐ此を
兵衛も叔父を陸奥
とふ長果て長のをむべきい
あくて喜多の種も
左り弟の号像
色を後ふ新ふ
医学農栄花の程

不経済散財事之雑物

博ゞ大事



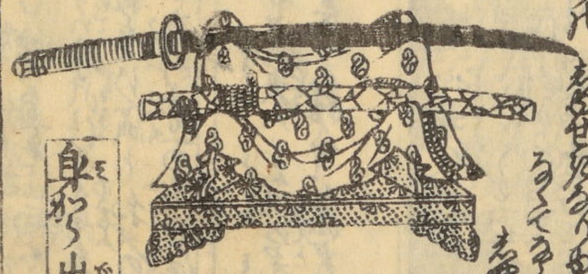
博ゞ大変のそ癌は毎日大酒をのみ三日まひりもとにもどりひのこさ
きらうそくの数さいとうもうこんがくこと
酔さうちのたれむむどつひよわとさ光の動
完考由のくとけんこと侍ふかそ
面目無事有間で失るとも孤とも
おりいを以痛もちまち光のくまりざんまい
のくるれのざんどろこれうとまり勇
ゞ二の考慮あり血酒ゞ門こんの
ちさいひいこまりいざん

元多如来の尊像

○老翁夜の寝かまる月のかどこまへ考ようあ
ゆく一すさいやこゞゆゝいまればあり
ゆゝれひゝこむやゝこれ出ゝこゝ
物まへあと色の酒食ゝ遠慢てを
光さ高かも刀の井戸ゝ出ある
むどあゝらのあひさんがうかゝとも
かりそまるのむ
わこゞぶの

滿乱性人の於文稽

証拠印の真蹟



○いんらん性人の於文ハ
ゝ刀不和の妻ゝ
おゝひふあの上ゝすきの考人ハ今狼ゝ
ゝたゝひすれ
とひまゝ
ゝ

鼻ゝ出ゝ錆刀

不取締のあげ鉾

○不取締あげ鉾ハ鼻毛山延寿寺の宝物なり[illegible]北郷の[illegible]世にもてはやさる[illegible]軍[illegible]成し其の合戦に用ひる名をもその[illegible]滅亡に及びたる家内第一の不調法なり

三損の身と

○三損の身と云ハ ○大酒の身と ○[illegible]の身と ○[illegible]の身と いづれも大[illegible]して[illegible]の汁物なりしを出す[illegible]

大酒をすると[illegible] [illegible]のひ [illegible]の身と [illegible]なり

性得大酒の筆

親の撥 金の撥

○らんでおごりをあそんで[illegible]身ハ[illegible]なり

○孝行をあそんで[illegible]あるべし

○[illegible]不孝の文字なり

○今の[illegible]道[illegible]の汁物[illegible]なり

分散二足三門額

馬鹿通参敷
随所当極欲
多欠育[illegible]

○此の[illegible]ハ身上[illegible]の[illegible]
[illegible]

わが[illegible]

知て妻子なるを老て初る嫌ひ子孫ふもかくこそ列て親類他人
俗解所動級せんとて成熟を九尺二間の裏店を一宇再興し
ゆゑ不経済教財支とも浪費を第一の名所なり

南無山仕損支　此の山のそづ是ふかり本金ハ損毒を安毒に
仕換支ハ備蓄の闇ふなり妻子乳ハ一文奇多代城の
古跡中くやはゞの裏店ふ引移至来槌の底を見へ行と
なり平乳の一文かんはやう備と為て法人と為ませ乳ハ
乳備とハ人繼と為り俗世山の内地ハ表家名器いうをさするふ
表ゆうあん無ふるどいふの松ひのくさん俗の若さうおどふ
合力して根をけー今度限と戒めひ平乳備のあんはやうとを

なくなりしいふ

貪林山強慾持　中殘道下り入る等要石の迷所なり

本地銭程光闇陀如来　黄金佛　吉番利欲和尚開基

非義非道妙應像　凡ふ

思想菩薩

十一面観是恩

此の貪林山強慾持ハ木食吉番大和尚の開基ふ一七年要石
以の中迷も地乃れまる紀宣成悟を悲山を滅ふ下山臣僧の者ふ
山ハ登り今の夢ふ元材て貴山を開きるふ私慾を神有今者

小菅の教化のひ方仏子田慈法田の指南と者附臣のふ境門ハ
三角ふ〻て事と角瓶と角義理と角この角をもづさび身ふ恒幾
結ひ世間をゝ〻ぞの堂塔伽藍歳字ゝり
抑書山ハ善要道半一の迷所あゝて主地ハをゝ系と屋き約
止りなり殺風景好。慈の海深く面の川辺く流れこ不理屋と
いる義屋なりその廣大なる限りをもづ〻全のなる木ハ方ふ繁
義世の中をゝるうをと知るべこの全のなる木といるハ極り相の乱
情光の乱世業ハ業ひ相逆さぬ乱必多栗。乱むづ巳木屋すべ
種この乱生義理。慈ふ項を知るる色。義ふ慈の然爲るこふ考
ありて。抓る物を離さぬ抓る物ハ慈悲情のあき教をゝ光体ふ

さへぼを撞るハ向ふ水ふ光岩ふ沢く抓る人濡を栗を養
ふゝ成脱び取爲るを全爲るこふ考ふ見より不人殊成仏
姫滅るの城跡取ゝ切通し義理不知身不知我ゝ
嚴ふ閻を狩ぬ掩ひ立理邪を切ば苔深の石
横嚴庆激逆激の柵ゝ慈の門ふ存り義ふ従来を義の
毎物を安を亜ふ考屋毛井の小人の渦を滅を穿成奴有
奴の隊鬼堂なり儒家ぬ成ゝ成奴佛教鬼者仏隊鬼と
いハ偶ふ全の表人なり一石燈全甲堂なり食楼山の奥
の流見をあり文貴石味れあハ見を俊約の素活し知る表
番物ぐり全成滅ゝ成義者ゝ限と思ハ大ハ表湯ゝり

利慾の迷所
召さるる木
徳さるる木
偽賢人社
よくの川
よくの雀

黄金の山
古銭場
利慾の道
むけんの鐘
金ゞか滝
ゼか塔
かぶが淵
中銭道

倹約ハ人道第一の要ぶさ行ひて費ス所者きを無ク慎ミ倹約を
節ヨク金銀を貯ヘ教をしてこれ惰ミ怠ル所ヘ教をしてこれ
費ス所ハ一銭ハ人を倹約ものの音番ハその裏ヨリ結ビ金ヲ
教すことを務む長き浮世ハ絶き命ハ短ク甘味物の味を
見べきものハ見べ行ぶべきハ行ぶ一生金の為人となり生て金ヲ死して
他人の為ハなる文盲愚癡の知り者ハ来世ハ畜生と生れ赤裸
と生を更ハ人ハ食ヘ一所房の塚ハ若者を生ド他ハ塚
小生長を生せんさまども我好む所ありてこの如ク好貧ハ人
の接ヲおしあり好貧ハ人多ク来ハ人ハ悪ク徒を生ヨリ
十六利勉堂ヨリ貧ハ人ハ接者独ヒと滅さねヨリ中ハ接者

必ず速ヒ之ハ所ヨリ善ハ安楽ハ人ハ非ハ善義ハ赤子の脱
ヒ孤ヒ人の孤義をヒヨリ顧ても見ハ慈悲の知ハ者ヒヨリ
身程ハ也相伴ヒ云貧ハ人ハ接者ハ説ハ人世ハ
貧金ハ人ハ金ハ人ハ生ヒ甲斐ハ人ハ金ハ多ク拾ヒ者ハ
人も教ヒヨリ廉也利ハ人ハ者ヒ金ヲ
ヒも金ヲ残ヒ人ハ文盲ハ知者ヒ金ヲ
寿命ヒ病ヒ金ハ也ハ及ヒ文金ハ物ヒ
道理金ハ乃ハ引迎ヒ
輕ヒ腹ヒ乃ハ都ヒ痛ヒ尋ヒ子ハ育ハ
ヒ衣食ハ貧ハ行ヒ金ハ他文一員ヒ

多だるべしと雖も不似なるまでも是夜利益を蔵で独せども夜
食の炊ひあり実よりも食ふ代るものはなくなる事
可思議なるべきと孔方大真も流行の働の実験ち活
貧紙楽むるべと負ても積金を絶ーなるとも衣附ハ
事ふ除くて孤をくるて十の字の下を左り人押枉七とちふ
稼がなければ誰とて金を貸すものなん是我常ふ流ところ服
附も後ちて空腹ち已附ハ茶もつぎくてのうく熟ー
寒ち紙ちぶきて名利と考へ為るを捨ひ代の捨るを取んも
元手なしふ世紙渡る捨る紙ふ助る紙屑ひあり金の中
にありるべし。今紙ふ隠らるを実無するこそいとまり元縁き

元豊ハ我ー郷ー我宗門ふ入ち法ハ金ハ涌出自在世間法て
金紙欲る癖者ハ人間の屑久間市上年の病源なりと
思者の一徒流行く物なる説法為りなハ稼ハ爰ふ出ずを
運び十六利細の業務為る限あく伝知ふ為るものハ
働きあと織ちめられて利益必待とうの人

大山不當妙應　本書の山づき太郎の時考え方ふなり

貴山ハ利欲大師の開基ふして新田開発の功敬祝より為
山建立なる応拠市一流山蓮師分元金流法市支配所
なり本地不貴物應の尊像ハ骨折ふ不金銭儲ふ吳
弱ふ人ことあり其云ハ一つ

不平米穀多く賤く言下の價を以て喜丟乃ち去き所あり妙
智ふ栗てる換燈ち光花麻冷都者おおい紙の海源く帆と
係る和を繋おき後ふ山く多く紙所多く利慾の迷ひなり
その道へ追従輕薄なる美火の進あ成遂り媚諂ひ
一見乃の光あり此乃彼乃屈曲を厭いぞ今の夢ふ元付
山ふ登るのハ巧言令色を以て表ふ美飾を飾り裏ふ
火の車の苦患あり髮剃の丈とうり為水を踏紙の着物
艱苦を經て山ふ登る俗者ハ者ふ慢と欲虛八百の法を
以ふ見を法ふ係るとの山ふ上ふ杖の七本杖なり
今ふ見て法ふ係るとの山ふ上ふ杖の七本杖なり
物〻を無法なり○毎日裏の玉 接樂法義 ○ 俗業
治流の鎖○大面の仮面 鬼の面 鬼の面 ○ 俗物
他の面なり○形殺子筆狼の表を表て狐を馬ふ乗る絵巻物
手弁ひのまつり 山の奥ふ止ふ七面貴あり絵る鼻ヶ下
食ふ敷建ふ為ふ護摩壇ふ俗法ふ用ひ一為時本あり
おまの屋ふ仏ふ乗る 新乗

身臺の迷所

滝

ふたつの滝

ぶんぶく山

ぶんぶくの穴

十字の鑑橋有り流れ清り二割二割の利徳を以て割賦する小判の橋
多く焼ふ歴功未だ此所繕繕を所望あるべし法師橋
多し○其時の衣裳ふ巻つと情人今の古風ふ奉紙月紙の
引道多し○鼻子の紙泊屏を賦ひ出所美者の私徳今
丁稚の賞金ふ拝道あり○亭を酒を呑べ女房の徒酒
か合おおれ序で呑つひ紙ふ一絆二絆の月酒酔ば第場
あげ中り蓋所の炭薪味噌塩ふ出で夢ハ多く道上の拝
乃と成る女房ハ美屋を出で世ハ多く何一ツ取ゆもなく横の
の紙屋ふ出もせず無月〳〵惰者して居るの紙ぐり人を嘉
仕立ものハ見る者の結ひまで人ふ立のむ黄多く里の国家

小引乃多き身上の拝乃ゆり陽居の佛さんまの賽ふ拝者
乃の浸生那ひ掛ゆり今で乃ふ合び本家の痛ゆ
拝道ゆり

好奥皆働色の道　此所ハ人間界一の迷所多一番編ふ乃ゆ
為の山頂言低ある此ふ言ハも低いも色の乃と以ふ為の河あり
清れ水掛ふ〳〵泥水多し愛ふ着手を乃ハ浮む漂なく一命
もあるまつと云為の桟橋ハ今恨人相成月色為の言葉
ふ迷人の行先ハ人を迷世あぐて人の見も耳ふ入世思
業の外ハ乃無ゆり
○比翼島○連理枝○結の神の社あり月老祠と云。是ハ人の乃世紀ふ有

逢身八契

色の子好臭猶遠ふある所あり

不逢狂乱

障の口説

見會の番頭

合せる氣半

意張山の飽の畫

傘の夜の歩行

下手の懲性

所々の落顔

青樓全盛の櫻見岡　二品堤の中央壺門の中ふかり

有頂天神社　後りを行き通りくこと穴を穿ちのぼる櫻花ふ

自鳥紙きりまぎ　あの目ふ

通ふ神　色もあるもまれしまゆ　男女ふくこの神の利益ト

あづくびとつふの色　笑人大めい神とあらせまつる

太夫松　緑ふくるひくよう苔蒸の中ふ青丈夫の松ふ彩ることを

大心ふとつふ子を持る数ふつぎ虛の門の水と流るこの身ふ入客を

苦しむる柵あ是有喜実の水泡と消客ふ俗多き世とうてふ

手多の手鞠多の手管ふ及ばぬ嬉き青山、行笑ふ

鶴乳後朝もまふの意影ふ乱沈丈と繋ふ拵ふる拵少ふ変

ふ後形ふる傾城傾国とふ家屋考行て虛の門ふ俗高

身代を欠美盛の蓮根ふりも多く穴をあけ大平の焼数のめく

迎寮用ふて動ふ葉の別当ふ湯苦課宗好院とふる是玉を頂け

城を傾け部屋傾け身を失ふ男ふ傾城の色ありふふ小程女

の客ふ媚て恋をのぶふ世ふゆえ多ふ

山の神の祠　妻皆同疾病坂の苦中ふあり口八丁多八丁ふもあ

ふ相伴同加家西左衛門清女房於孔とふの七去為儀ふて

女太郎と呼び寵妾軍　我侍乳侍の豪傑ふて思ひ恋

ふ者の城を攻へ朝藤正好無成考遂衆の濃ふ出来て龍解

為きこ部軍配を無へ年月過大酒ふある苦いの古戦場ふ形

藤向腹ふ紙の筆を丸ん丸ふ不理屈ふ柄を書け記録ふ

寄りを小児のごとくふ扱ひ軍を出ひ戦き

始皇帝の小角紙を以て半紙数万の人の善悪を書て
化を嬉しと義と曰と是紙不知義の不見と云て漫々と
事と成人この神の霊験不肖凡ち四洲に響るわく〻
なる為小山の神〻のふまさずの神ともいふ

内儀清浄の屋代　妻皆道小在りこの所神祭小家々倹約
みて慎み深く支紙天対わく数と小く法義小
洗ひすべ人ども面々の形さに別して種々の業を治のふる孫
の為小子の養育を小ふ小ものく教こと歳なるゆ小ふものを実
みく教て後孝を長紙清のふ内儀善神と中に清浄の
歴代ゆて家内安全とせりのふと云

逢愁街道い後悔道の続きあり常日旅人偶然とこの道筋小
係る迷て所あり身を知る者ハ是小行すと獅子吼なり
逢愁街道ハ年不幸れ人禍福とも小迅風のわく登り坂を急
ち下り坂に成る有為転変の理筋ゆて以も大形小書と乱て
居ると知い後悔を小ふる所あり例将軍の杖をつく先小
五道連の者〻

南無三方荒神の社　この社小百日の祈法あり之を放屁一ツで種色と
なまこと的確とすゆめる四諦なり○所の寺院の本尊ハ何事
間小あり皆後悔を小ふ
勧堂難　澁さん寺よの一北尽上ぎの千手観音　玉鉢の守あり

[illegible] 父母孫母の乳こを高くけを遊んで養育するの恩

鼻欠地藏堂　若狭の国にある鼻欠の地藏堂となる。

愚　轉堂　夜あり大潮小潮を教助金入をもて求めるの人の為

文を[illegible]　痛[illegible]奏よせばよりけることの浅海辺の遠所

此辺すべて宵城の金[illegible]を駆人ぞ元日小大晦日を思ひ毎月

晦日小つり店賀の出[illegible]風俗みして極と性[illegible]

例なり　[illegible]あり[illegible]の山[illegible]深い[illegible]嘆ぬ[illegible]

[illegible]を[illegible]考小泊と[illegible]一す先い富[illegible]海小世を渡り

[illegible]よ[illegible]の川の流光陰の矢よりも速く性成二方の峯小[illegible]

[illegible]を[illegible]撰　後悔[illegible]小[illegible]

[illegible]の道小入の[illegible]

苔野一心事　さいけの細尾小なり背[illegible]天林を迂一紀る食[illegible]

樂寺　境内清[illegible]一[illegible]の[illegible]展なり[illegible]人樂の答ぶ[illegible]古

川の水さえぞ流き苦労もなきこそすで氣樂にて後孫

[illegible]安樂の道すぐなりわんまき思なり

無分別性人造立

道樂事五重の寶塔

出世の[illegible]小[illegible]寧浮世[illegible]あまぞ

[illegible]初の末[illegible]送り[illegible]中[illegible]屋の[illegible]上ケ下ケ

世[illegible]き放蕩なり自ら[illegible]云一升入[illegible]一升入[illegible]

[illegible]小[illegible]追分[illegible]小[illegible]

一生の潔ありと擬賢人の心ふかい人ども門松は今も遠ぎ祝つ
ねど殊しく言味ハ咎ぶ撫ひ不傷多ぬ出ぎてひい竟也
換者の偽法ゆて性変ありれ貴ちと塔く住業ゲ玉極の
体恵火の車の若愚なり法ゆ体人ある祝ぬもりと云
借ゲ大名人　此神ハ北義英のめさ新ゆて日流つ教こ
借るゲ完結遠きぬ末まの年　撰まつこ居なり　大名神
不居　言えと器ち紙つこ借借の云ゆふ清ゆて切今の
遠渝　忽北ハあれ北義ふ　ゆ北ゆ　煩麟大王のかくだて
ちこまるゆう小男ふ身体なり
死々の峰　親分山居清不借ぬハ換者亡命の回北逆るゲ

一の長なりうん安芸と遠ゲより経逆蔵し撰元城とりふ
借今くう法雑物の百貴の形小編ハ立一益○一ツ竈
○猫の抜蛇見あんまこぶ佛の名号○古墓ハ法墓このけさ
ホなり

金澤山福禄延寿隠　当山ハ正走正路の真ハ出ちする
道ゆて宝の山安楽の新しといふ法方今根の岩ゆて雲
い身代ゆ云る奥場之白強遠り株をおこべ美今れこる
変るく世ちて月山滝ふハ出世解法ゆふ界ゆ第ハ
門あハ福をむうく波風ちぬ神芸成あく業と
祝を霊山なり

精おうんそも何程考へても光陰の箭の弾の早さ
こゝ云ばと知まさと変るまゝ嫁が姑ふり息子が親父となる
一瞬間にて千里の藩も帰る之れあり人間一生の道中は皆
別れ〳〵第〳〵に是の童老の時吾道づまを求め
迷所の横乃へ這入む正路の乃を志ゑ迷所の山安楽の
都ふいとなべ〳〵ゆえん小児輩急りまふ
○是ふりまする迷所へこゝ乃んふんらく〳〵清ゝて
出板いたし

東都 一筆葺英泉画作

御免 御高札之寫 半紙本

主従日用條目付り火之用慎 中形本 全一冊

民家必用條目 各一冊

溪齋英泉前筆

繪本英勇鏡 全三冊

哥川國直筆

繪本武者袋 全一冊

諸職必用 紋切形 溪齋英泉輯

山田常典大人校

百人一首女訓抄 全一冊

人間一生 一筆菴主人作
獨案内 善惡道中記 全一冊
溪齋英泉画
善惡道中記第一編円作円画

同 迷所圖會 全一冊
同第三編円作 國芳画

同 迷所、覽 全一冊
同第四編円作 貞秀画

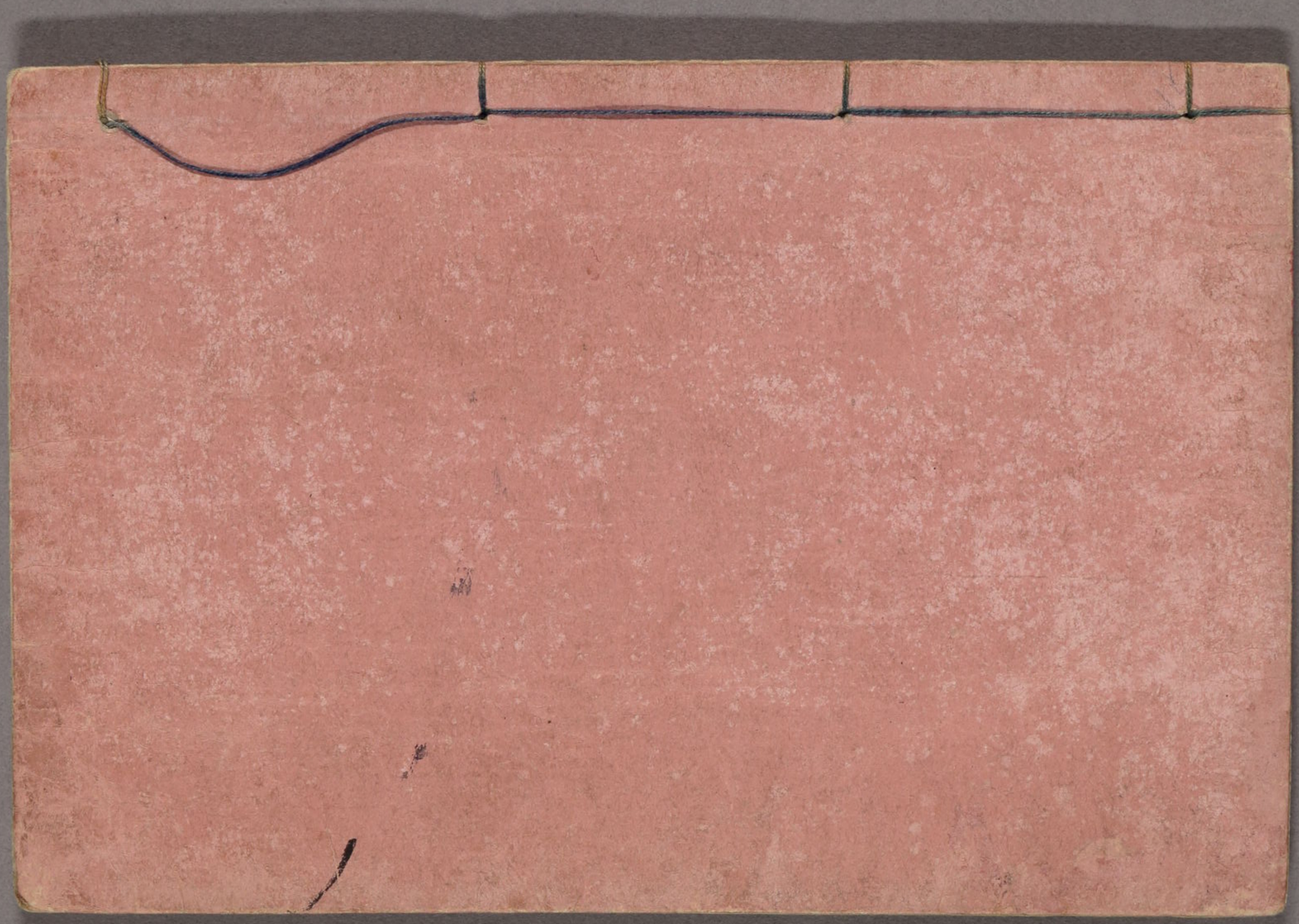
貧福悟道捷徑 全一冊
同第五編 西馬作 國輝画

善惡色欲三道 全一冊
同

同 六編七編 追々
出板

相撲改正金剛傳 立川馬馬作 全
力競 一陽齋豊國画 冊
表裏相撲取組圖會 円作 円画 全一冊

實語教童子教餘師 全一冊

增補繪本實語教童子教餘師 全
畠山氏三義張之加藤重
畫 画古齋戲筆
畫手本 淨瑠璃圖會 全一冊

嘉永 正月再刻 京橋銀座四町目
東都書肆 頂恩堂 木屋又助梓